様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ５ 月 ２７ 日現在

機関番号：１４４０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2016
課題番号：２５３７０４１４

研究課題名（和文）移動する作家たちの東アジア：交渉の場としての文学運動

研究課題名（英文）Literary movements and human mobilities: Border-crossings in East Asia

研究代表者
平田　由美（Hirata, Yumi）

大阪大学・文学研究科・教授

研究者番号：６０１５３３２６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,500,000円

研究成果の概要（和文）：歴史的、文化的に長く広範囲に及ぶ「東アジア」と日本との関係は、近代以降、帝国日本の軍事主義と戦争によって、より複雑に絡み合い重なり合ったものに変化したが、しかし敗戦後の日本は植民地主義の過去を清算し終えたとは言えず、その遺産をめぐる論争はしばしば東アジア地域の緊張を作り出している。本研究は、東アジアを越境的に移動した人々とその文学的活動に照準を合わせ、種々の交渉の過程から出現する場所と人との関係に新たな光を当てた。

研究成果の概要（英文）：“East Asia” and Japan share a long history and a wide range of integrated culture. However, Imperial Japan and its wars transformed and complicated this relationship, causing further entanglements and overlaps. In many ways, defeated Japan has not taken adequate responsibility for the war it waged, nor for its colonial rule, and frequent disputes over Japan's imperial legacy add to these tensions. Focusing on those who crossed borders of East Asia and their creative activities; writings, paintings, films, and so forth, this research shed light on the relationships emanating from mobilities.

研究分野：日本文学

キーワード：移動文学　ポストコロニアリズム　移動／越境　「東アジア」　社会思想

１．研究開始当初の背景

サイード（E. W. Said, *Culture and imperialism*, 1993)を引くまでもなく、異なる文化的背景を持つ人びとの《移動》は相互に影響し吸収し合う関係や意図的な忘却、闘争を通じて人類の文化を作り上げてきた。「東アジア」と呼ばれる空間を対象として、文学的営みの具体相を明らかにする研究は、K. L. Thornber の *Empire of Texts in Motion* (Harvard University Asia Center, 2009)が、新興帝国日本の支配的文化と中国・朝鮮・台湾における文学的「伝統」との「交渉」を丹念に描き出したように、今世紀以降、ようやく進展しはじめたものである。

ポストモダンの無国籍的で越境的な文学が世界市場をターゲットに産出され消費される一方で、「難民」「移民」「出稼ぎ労働者」「ツーリスト」など移動する大量の人間をめぐって排除と包摂の言説が跋扈する現在、《国民史》の一部としての文学研究の不可能性は明白であり、国境で区切られた領土とそこに囲い込まれた国民とを前提にしてきたナショナルな地域研究は根本的なパラダイム転換を迫られているといえる。

２．研究の目的

本研究は、日本・朝鮮半島・台湾・中国大陸において展開した日本語を初めとする文学活動のうち、(1)領土的境界を越えて移動しながら活動を続けた作家たちの接触と交流の諸相を、(2)アジア太平洋戦争の終結を挟む連続的なパースペクティブから捉え返し、(3)政治・社会運動との連帯を含む地域間の文化活動として再考することを目的とする。

これら東アジアの文学の《近代化》における情報源として、日本のメディアに関する資料発掘や植民地・占領地の「御用作家」「親日派作家」の再評価などが歴史認識をめぐる政治的な軋轢を越えて進められており、日本文学研究をそれらの地域の研究と接合する必然性と必要性はきわめて高い。

３．研究の方法

対象時期を(1)ロシア革命をはさむ両大戦戦間期、(2)第２次世界大戦から50年代前半、(3)冷戦期の３期に大別し、各時期における東アジア地域の文化運動における国際主義的、越境的連帯の諸相の把握と検討に努めた。具体的には、(1)コミンテルンやクラルテ運動などのように社会変革運動の支柱となった思想とその形象化としての文学的テクスト、(2)第二次世界大戦の終結を挟む時期の PEN International と各国に設立された PEN センターの活動と組織運営に関わった人々の動向および冷戦期の諸活動との断続、(3)植民地・占領地からの日本留学生たちのネットワークと機関誌発行活動、(4)大戦終結後の故国への帰還者や各地域の残留者で作家活動を行った人々などを中心に資料の収集と分析を行った。またこれらの作業と並行して、国内外でのフィールドワークを実施し文献調査との突き合わせを図り、分析結果の再検討を加えた。

４．研究成果

成果は異なる地域・分野の研究者からなる研究協力者とともに、国内外の学会、国際シンポジウム、ワークショップなどさまざまな場で発表され、プロシーディングや学会誌、図書として刊行されている。

成果は異なる地域・分野の研究者からなるプロジェクトのメンバーにより、国内外の学会、国際シンポジウム、ワークショップなどさまざまな場で発表され、プロシーディングや学会誌、図書として刊行されている。研究代表者による成果の一部は下記に記す通りであるが、特に『「帰郷」の物語／「移動」の語り』（平凡社、2014）は、本課題とこれに先行する複数の科研費研究の集大成として出版されたもので、「移動」の経験を語る数々のテクストが引揚げ・復員など国民への再統合を語る「帰郷の物語」とは位相を異にすること、戦後日本が不可視化したマジョリ

ティとしての「日本国民」の中の亀裂やズレ、われわれの生きる場所が日常的な越境によって常に作り変えられつつある重畳的な空間であることの具体的な諸相を開示した。

「移動」の語りは、植民地支配と戦争体験への省察が突き詰められないまま経過した戦後の 70 年という時間に鋭く突き刺さった棘として、繰り返し耳を傾けられるべき声であり続けているのではないだろうか。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　2　件）
平田由美「越境の語りに耳を傾ける」『日本学報』33 号、2014、pp. 83-90 [査読なし]

平田由美「《マイナー文学》の政治と言語――脱植民地過程における「他者」という隘路あるいは通路」，『東アジアの人文精神と日本研究』(韓国日本学会大会予稿集)、2016、 pp. 177-186 [査読なし]

〔学会発表〕（計　5　件）

Hirata Yumi, Southeast Asia in Japanese imagiNation:A case of the Philippines, Japanese Studies Association in Southeast Asia International Conference 2016, 15-16 December 2016, Cebu, Republic of Philippines　[審査有]

平田由美「《マイナー文学》の政治と言語――脱植民地過程における「他者」という隘路あるいは通路」, 韓国日本学会, 2016/08/26　[招待発表]

Hirata Yumi, Other Places, Others' Places, as Produced in the Experience of Mobility, Association for Asian Studies Annual Conference 2016, 31 March-3 April 2016, Seattle, USA [審査有]

Hirata Yumi, Sounds, Memory and History: Spaces of Korean War in Short Stories by Kim Dal-Su, Exploring Space in Japanese Literature, International Conference, Berlin Free University, 12th November 2015, Berlin, Germany　[招待発表]

平田由美　「メディア・民族・ジェンダー：東アジアの《近代》と女性表象」、ソウル大学、2014/3/20　[招待講演]

〔図書〕（計　2　件）
平田由美ほか、テッサ・モリス＝スズキ編『朝鮮の戦争：1950 年代』、岩波書店、2015、288p（pp.77～102）

伊豫谷登士翁・平田由美（編）『「帰郷」の物語／「移動」の語り』、平凡社、2014 年、333p

〔産業財産権〕

○出願状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
平田　由美（HIRATA, Yumi）
大阪大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：60153326

(2)研究分担者

なし　　（　　）
研究者番号：

(3)連携研究者
なし　　（　　）
研究者番号：

(4)研究協力者
西川祐子（NISHIKAWA, Yuko）
京都文教大学・客員研究員
研究者番号：50183538

伊豫谷登士翁（IYOTANI, Toshio）
一橋大学・大学院社会学研究科・名誉教授
研究者番号：70126267

坪井秀人（TSUBOI, Hideto）
国際日本文化研究センター・教授
研究者番号：90197757

美馬達哉（MIMA, Tatsuya）
立命館大学先端総合学術研究科・教授
研究者番号：20324618

ブレット・ド・バリー（Brett de Bary）
コーネル大学東アジア学部・教授

テッサ・モリス＝スズキ（Tessa Moris=Suzuki）
オーストラリア国立大学アジア太平洋学院・教授

孫歌（SUNG, Ge）
中国社会科学院・研究員

朴裕河（PARK, Yuha）
世宗大学日本学科・教授

申寅燮（SHIN, Inseop）
建国大学アジアディアスポラ研究所・教授